

シンガポール国際水週間2014

「持続可能」テーマに

日本の展示も賑わう



開催国以外では最大のスペースを誇り多くの人が訪れた日本パビリオン【下】谷津環境事務次官(前列右から3人目)の姿も

「シンガポール国際水週間(SIWW)2014」が1日から5日まで、「持続可能で住みやすい

都市のための水環境ソリューション」を主要テーマとしてシンガポールで開催された。今回で6回目を迎えたアジア最大のこのSIWW国際会議では、世界各地の政策関係者や水問題の専門家、水に関する各国の関係機関のトップが一堂に会し、各国の基調報告、ワークショップ、ビジネスフォーラムを通じ、水に関する諸問題が幅広く討議された。事務局の発表ではこの期間中、世界140カ国から約2万人が参加、展示は約850ブースの規模となった。

初日、「SIWW」世界都市サミット「グリーン環境サミット」と大規模国際イベントの合同で行われた開会式でシンガポールのリー・シェンロン首相が約3000人の参加者を前に基調講演を行った。専門家会議では、技術に関するホットイシューとして、次世代のバイオテクノロジーとして特に嫌気性処理にス

ボットが当てられ、膜を使った嫌気性処理(MBR)、脱窒素処理が取り上げられた。また、強靱な都市づくりとして都市の洪水対策、産業用水と排水処理として特に工業団地の総合的な水循環と処理、革新的な水再生方法、大災害時における水の供給なども取り上げられた。

EXPO)には国別のパビリオンが設けられ、16カ国(シンガポール、オーストラリア、ベルギー、米国、フランス、カナダ、デンマーク、イスラエル、中国、ドイツ、英国、韓国、オランダ、スイス、台湾、日本)が展示を競った。中でも、日本パビリオンは開催国を除き最大のスペースを設けた。

▽日東電工▽明電舎▽三菱電機などは単独で大きなブースを構えた。技術セッションは4日まで開催され、4000人以上の専門家が発表や意見交換をする盛り上がりを見せた。

【取材協力】グローバルウォーター・ジャパン代表 吉村和就氏(国連環境ア

OPENING CEREMO

Guest Of Honour
Prime Minister
Lee Hsien Loong
1 June 2014



講演するシンロン首相

シンロン首相講演要旨

SIWWは世界都市サミット、グリーン環境サミットと併設して開催され、年々規模が拡大している。2年ぶりで開催されたSIWWで皆様と再会できたことは大変うれしく思う。2年前と比べ世界の都市化は急速

次世代にクリーンな環境を

に進み、この2年間で1億人以上の人々が都市に移動している。これはシンガポールの人口の20倍に近い数値である。近い将来人類の70%は都市に住むと予想されており、反面多くの課題を抱えている。都市環境の悪化、地球温暖化による危機的な水災害や水不足に直面している。しかし人々は常にハイレベルな生活環境を要求している。

シンガポールは「持続可能な都市づくり」を最善を尽くしている。次世代にクリーンな環境を継続するため、特に水とエネルギーに注目を期待している。

SIWWの機会をフルに活用し、アイデアの交換、オープンなディスカッションを通じ皆様と「持続可能な都市づくり」を目指し、一緒に活動できることを期待している。

に進み、この2年間で1億人以上の人々が都市に移動している。このマリナベイは革新の激しかったマリナベイは革新的な水環境を改善する多くの技術を用い「理想的な都市」として世界に知られることになったのは我々の誇りである。

しかし我々にはまだまだ課題が残っている。持続可能な都市づくりをめざし、公共交通機関の創造、情報産業の創造、インダストリーエリアのエネルギー効率化、水素プロジェクトの推進、水の地下注入による水源の涵養など課題が山積している。

▽日東電工▽明電舎▽三菱電機などは単独で大きなブースを構えた。技術セッションは4日まで開催され、4000人以上の専門家が発表や意見交換をする盛り上がりを見せた。

【取材協力】グローバルウォーター・ジャパン代表 吉村和就氏(国連環境ア